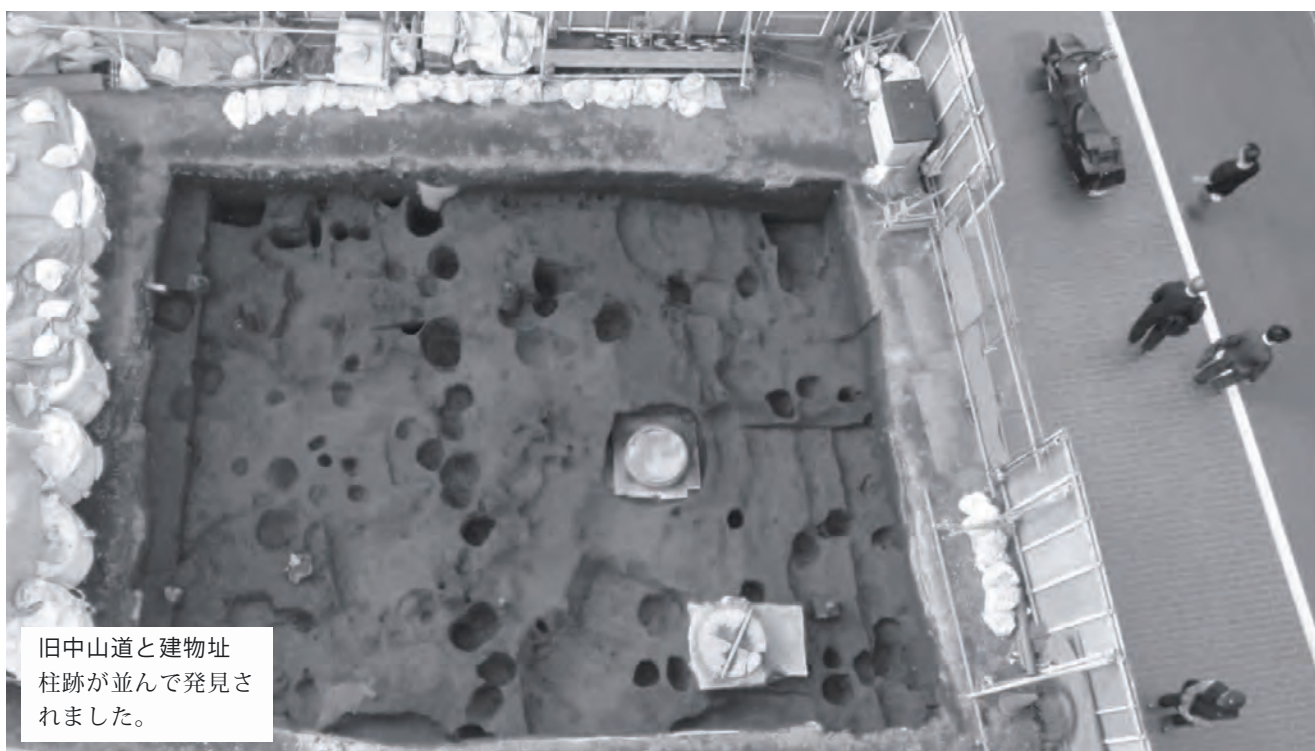


つたのは通信

特定非営利活動法人 としま遺跡調査会

巢鴨の喧騒と遺跡

巢鴨遺跡（タカセ巢鴨店地区）の発掘調査



旧中山道と建物址
柱跡が並んで発見
されました。

賑わいをみせる巢鴨地蔵通り商店街。その中に「埋蔵文化財の発掘調査中です」の看板とともに突如として現れた遺跡の発掘現場。この春、巢鴨は町家跡の発掘調査に沸騰していました。

地蔵通りに面した発掘現場は、商店街の中であって異質な空気を醸し出しています。その空気に誘われて一人の通行人が立ち止れば、周囲の人が一気に集まりだす習性、人間の性でしょうか。「工事現場?」「違いわ、遺跡よ」「化石なんだー?」「小判が出るのか?」などと言った各々の盛り上がりようです。ほぼ見世物状態の私達は、何とも言えない心境です。間違った情報が伝わるのはさすがに良くないので、このような時私は調査員から解説員へと職種(?)が変わり対応するのです。結果、見物客は非常に満足して散会します。巢鴨における発掘調査はいつもこのような環境の中で行われているのです。



老若男女問わず、遺跡の発掘調査は気になるようです

さて、肝心の調査の成果ですが、人為的痕跡がはっきりとあらわれるのは江戸時代前期からです。この時期は、旧中山道側溝の一部と推定される溝が複数見つか、溝の変遷からは次第に街道側へと場所を移していったことが窺われます。旧中山道の筋や道幅を考えていく上では貴重な情報です。その他、複数基の柱穴が確認でき建物の存在が想起できますが、現段階で

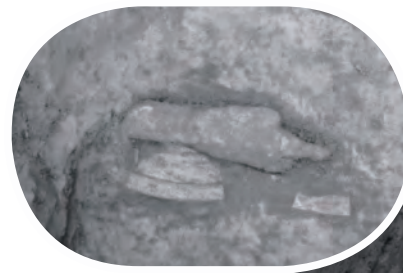
詳細は掴めていません。しかし、包丁や播鉢などの調理具をはじめ、多くの日用品類が出土していることから、ここで生活していたのは確かなようです。

江戸時代中期には、町家と思われる掘立柱建物が通り側で見つっています。建物の軸方向は現在の地蔵通りに平行・直交する形をとっていたことが判りました。巣鴨町が町奉行支配に組み込まれた時期(1745年)以降にあたり、周辺の調査地点と同様にこの頃から生活の痕跡が増加していきます。

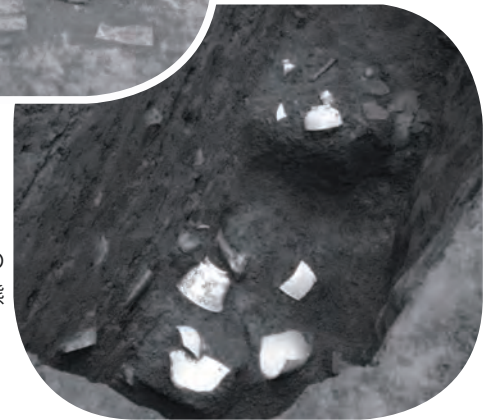
江戸後期の調査では、一転して、建物が無くなり植栽痕が全域に広がり、一部には道や地下室が発見されています。現在でも同じことですが、店が表通りに面しているかで売り上げが左右されます。それにも関わらず、この町家はそれに反した土地利用です。街道際まで植栽空間であったことをありありと物語っている状況と、出土した植木鉢の存在からは植木屋が浮かび上がります。つまり、商品・作品である樹木や鉢物を道行く客に見せる効果を狙った上の配置なのでしょう。加えて、植木屋は裏手に屋敷を構えていたと予想され、客を奥へと引き込むための工夫とも考えられ、植木屋ならではの空間のあり方と言えます。



江戸時代前期の調査風景



←包丁、播鉢、砥石が出土した状態(江戸時代前期)

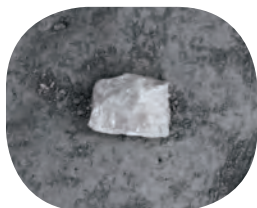


→地下室から多くの遺物が出土した状態(江戸時代後期)

「巣鴨まちかど遺跡ミュージアム」やシンポジウム「中山道すがもまつり」が調査期間内に開催されたこともあり、地域の遺跡や歴史を身近に感じてもらえたのではないかと思います。加えて、今回は計3号の発掘の速報誌を現場フェンスに掲示しました。当初は小さなサイズでしたが、商店街内の店主のご厚意によって大きく引き伸ばして頂き、結果、読みやすくなった速報誌には足を止めご覧になる方が増えました。また、写真撮影には隣地のオーナーさんが場所を快く提供して頂きました。この他では、現場見物がきっかけで賛助会員に入会して頂いた方もいました。今回の調査は、多くの方との交流や支援があったことがとても印象的で、忘れられない調査となりました。(高木翼郎)

発掘調査情報

廃兵院跡に眠る、古の遺物



旧石器時代の石核

前号でご紹介した、豊島区北大塚遺跡(新日鉄興和不動産分譲住宅地区)の発掘調査が、4月27日に終了しました。

本地区では、大きく4つの時代の遺跡が確認されました。まずは、本遺跡では初めての発見となる、旧石器時代です。石器をつくるための石核が出土しました。チャートという石質で、多摩川上流や秩父などで見ることのできる石です。今から約2万年以上前に堆積したローム層中から見つかりました。

2つ目は縄文時代です。狩猟用の落とし穴や土坑からは縄文前期(約7000～5500年前)の「撚糸文系」



縄文土器の出土状態

土器が出土しています。

江戸時代では、水路の可能性のある溝状遺構や、大名屋敷に関わる区画施設としての生垣痕、植栽痕などの遺構が発見されています。



最後に、近代遺跡で特徴的な断面形をした溝状遺構。階段付きの防空壕が発見されました。恐らくはアジア・太平洋戦争時に構築されたものでしょう。壕内の埋土の中からは、上屋の一部と考えられる、トタンが折れ曲がった状態で出土しています。

このように時代の異なる遺構・遺物が発見されましたが、北大塚遺跡がもつ多様性がよくあらわれた調査であったと言えます。(榎本邦人)

近隣の中学生、高校生が発掘現場見学に来訪



時折小雨が降る中での見学でした

前頁で紹介した北大塚遺跡の発掘調査現場に、4月20日(土)午後、十文字中学校の2クラスの生徒と先生方30名、本郷学園の地歴部の学生6名と先生方が見学に訪れました。

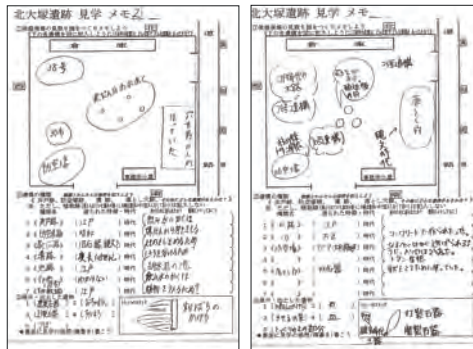
十文字中学校は北大塚遺跡のそばにあり、調査地区の前の道を通って登下校する生徒たちは、身近に遺跡があると知って驚いたようです。防空壕^{ぼうくうごう}はどのような目的で作られたものか、落とし穴の形態の特徴、遺物の説明などを熱心に聞いていました。

質問時には、遺物を手にとって破片を接合してみたり、調査が終了した場所でロームを掘ってみたり、作業員さんにあれこれ話しかけてみたりと、積極的に「遺跡」を体感する姿が印象的でした。

後日、社会科の先生が用意したワークシートで感想をまとめたものを見せいただきました。ワークシートには、本物の遺跡に触れたからこそ感じる事ができたのであろう感想がつつられていました。その一部をご紹介します。



しげしげと遺構を観察する女学生たち



ワークシート一例
生徒の皆さん遺跡のことをよく理解しています。

- 学校の近く(身近な所)に遺跡なんてあるんだなと思いました。なぜならば、多くの勉強した遺跡は、東京の近くにあまり見られなかったからです。
- 昔の人の努力や生き方、どのような環境だったかなど、たくさんの事を学びました。
- 昔、生きるために色々な工夫をしていたことを知った。
- 今と昔はとっても長い年の差があるけれど、それを触ることができるというのは本当にすごいことだし、おもしろいです!
- 何百年、何万年前の人が使っていたものを見る、触る、というのはとても不思議な感じがしました。
- 私もいつか未来には遺跡になっているんだと考えるとおもしろくなりました
- その辺の石と遺跡の石との見分けがつかないのに、発掘のお仕事をされている方々は見分けがつくのがすごいと思いました。

このような遺跡との出会いは、多くの人の心の奥底に眠っていて、ふとしたきっかけで思い出すことがあるようです。今回北大塚遺跡を見学に訪れた生徒達も、いつかこの時の感動を思い出すことがあるに違いありません。
(成田涼子)

北大塚遺跡見学会を開催しました

4月13日(土)に北大塚遺跡において当会会員向けの遺跡見学会を開催しました。当日は、天候に恵まれ、気持ちのよい遺跡見学会となりました。今回は会員向けの特別プランとして、JR大塚駅から出発し、遺跡とその周辺の立地を説明した上で、目的の発掘現場を見学するという流れで行いました。なお、現場では出土したばかりの石器等の遺物に触れて頂くコーナーも設置しました。

次に、近隣で実施している巣鴨遺跡の発掘現場にも少しお邪魔し、最後にJR巣鴨駅で開催されていた、開業110周年記念展示企画に豊島区教育委員会が協力した遺跡紹介も観覧することができました。

説明を受けながらの現地まで歩くスタイルが好を評して、大変面白かったとのご感想を頂きました。2時間という短い時間でしたが、遺跡に浸かった内容に富んだ見学会だったのではないのでしょうか。今後も折をみて、会員向けの遺跡見学会を企画していきたいと思ひます。
(山崎吉弘)



調査員の説明を受ける参加者の方々

5月より考古学講座を行っています。前期講座は「発掘調査報告からみえた豊島区の遺跡」と題し、豊島区内の遺跡について解説し、実際に出土した遺物に触れる講座となっています。これまでに第2回まで行っていますが、受講者は、発掘調査の裏話や巣鴨遺跡の調査成果には特に関心があり盛んにメモをとっていました。



後期講座のお知らせ

八王子城を含む中世の城館巡りを予定しています。「広報としま」や「財団ニュースみらい」などに掲載されますので、ご確認ください。前期と同様に会員には当会より補助金が出ます。※募集終了致しました。(山崎吉弘)

展示開催中

まちかど遺跡ミュージアム始まりました

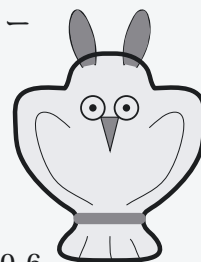
今回で3回目を迎えた“雑司が谷まちかど遺跡ミュージアム”がはじまりました。「出土遺物からみた江戸時代の暮らし」展では、江戸時代の雑司が谷で暮した庶民の生活を、出土遺物や写真パネルなどでご紹介します。夏の雑司が谷散策の折に、ぜひお立ち寄りください。



→角兵衛獅子が迎えてくれます

雑司が谷まちかど遺跡ミュージアム※展示は終了致しました。 出土遺物からみた江戸時代の暮らし

- 会 期：2013年6月29日(土)～8月28日(水)
 会 場：雑司が谷案内処 2階ギャラリー
 所 在 地：豊島区雑司が谷3-19-5
 開館時間：午前10時半～午後4時半
 休 館 日：毎週木曜日
 入 館 料：無料
 問 合 せ 先：雑司が谷案内処
 【Tel】03-6912-5206
 交 通：鬼子母神前駅(都電荒川線)より徒歩1分
 雑司が谷駅(東京メトロ副都心線)より徒歩2分
 ほか、池袋駅・目白駅からもご利用になれます



スズミン

「雑司が谷まちかど遺跡ミュージアム」展 関連企画 ※イベントは終了致しました。

親子で「泥面子」をつくって遊ぼう



開催中のまちかど遺跡ミュージアムに関連したイベントを行います。

当日は展示見学後、泥面子制作、

最後は鬼子母神境内にて泥面子を用いた江戸時代の遊びを体験していただく予定です。

歴史ある雑司が谷の地で、夏休みの思い出を一緒に残しませんか。

- 【実施日】 8月4日(日) 午後1時～4時(3時間)
 【会 場】 雑司が谷地域文化創造館、鬼子母神境内
 【定 員】 10組20名
 【対 象】 区内在住、在学の小学生とその保護者
 【参加費】 無料
 【申込方法】 往復はがき：往信面に(1)イベント名(2)住所(3)親子それぞれの氏名(ふりがな)(4)年齢(5)性別(6)電話番号
 返信面に住所・氏名をご記入の上、以下に郵送ください。
 ※返信用はがき持参で窓口申込みも可能
 【申 込 先】 雑司が谷地域文化創造館 〒171-0032 豊島区雑司が谷3-1-7
 【申込締切】 7月21日(日)必着 ※申し込み多数の場合は抽選
 【問 合 せ】 雑司が谷地域文化創造館 Tel03-3590-1253

発掘調査報告書の新刊紹介

染井遺跡で3冊(『染井XXVI』、『同XXVII』、『同XXVIII』)、巢鴨遺跡で2冊(『巢鴨町XV』、『同XVI』)、雑司が谷遺跡で2冊(『雑司が谷VII』、『同VIII』)が新たに刊行されました。



『^{そめい}染井XXVII』 としま遺跡調査会調査報告 11 染井遺跡 (パークハウス駒込染井地区) の発掘調査

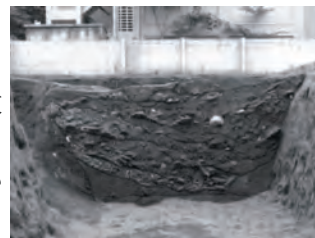


本地区は江戸時代の武家屋敷、津藩藤堂家の抱屋敷に当たります。

同地区の調査(2009年度)では、比較的大規模な建物址をはじめ、地下室や方形竪穴・井戸等の遺構が数多く発見され、出土遺物の内容や数量を考えると居住空間であったと想定されます。また、近世だけではなく近代の遺構調査も実施され、堀からは生活用品や

建材が大量に出土しました。これらの資料が、近代の藤堂家抱邸に係るものであることが判明しました。

今回の発見は、染井屋敷の特に抱屋敷の土地利用、そして近代抱邸を解き明かす手始めになるかも知れません。(高木翼郎)



藤堂家抱邸期廃絶の空堀

『^{そめい}染井XXVIII』 豊島区埋蔵文化財調査報告 12 染井遺跡 (レーベンリヴァーレシュアレジデンス地区) の発掘調査



報告地点は津藩藤堂家下屋敷の一角で、ここは下屋敷範囲の南端部にあたっています。主に発見された遺構は「植栽痕」です。一見無秩序に見える植栽痕の広がりにはいくつかの規格性が認められ、また植栽空間内に帯状の通路を見出すことができました。本書では、下屋敷南東部における空間構成についての考察を試みています。(高木翼郎)



上空からみた調査区

『^{すがもまち}巢鴨町XV』 としま遺跡調査会調査報告 39 巢鴨遺跡 (巢鴨遺跡における近世町場の発掘調査) の発掘調査



本書は、巢鴨遺跡内の近世の巢鴨町における発掘調査についての報告書(4地区収録)です。この内の3地区は、菊造りで有名な植木屋 保坂四郎左衛門家の地所にあたります。植栽痕や近代に入って植木屋を廃業する際に廃棄されたと思われる植木鉢が多数確認されました。残る1地区からは、大きな土地の改変が起こったことが窺われました。近世巢鴨町の土地利用の一端を考える上で貴重な成果が得られました。(山崎吉弘)



四郎左衛門家出土の植木鉢

『^{すがもまち}巢鴨町XVI』 としま遺跡調査会調査報告 13 巢鴨遺跡 (ルーブル巢鴨地区) の発掘調査



本地区は、巢鴨遺跡の中でも中山道の南側、120mほど離れた場所に位置し、江戸時代では巢鴨町と巢鴨村の境界付近にあたります。調査の結果、江戸時代の畝の跡が検出されました。この畝跡は、調査区半ばで途切れ以北には展開しません。近代では、柵列が設けられており、江戸時代以来の境界意識が近代まで継続されていたことが確認されました。この他に、1928(昭和3)年に建てられた、ライオン株式会社の前身の会社である小林商店の寄宿舎跡等が発見されました。(山崎吉弘)



調査区南側全景

『^{ぞうし}雑司が谷VII』 都道整備事業関連豊島区遺跡調査団 雑司が谷遺跡 環状第5の1号線 (飯田豆腐店前地区・電停裏地区) 整備事業に伴う発掘調査



本誌第16号で掲載しました、都電荒川線と併走する都道環状第5の1号線に伴う最後の発掘調査地区が刊行されました。小さな面積ではありましたが、近世を中心として中世や近代の遺構・遺物が発見され、一連の調査地区である『雑司が谷III・IV・V』から継続してきました調査成果をまとめた一冊となっています。

注目したいのは、大正5(1916)年にはあったとみられる道路の下から発見された大型ごみ穴です。近世から近代の飲食器類が多く出土し、考察でも近代飯碗の変遷について触れています。このほか、これまで散見されてきた中世遺物の傾向から、雑司が谷村落の一樣相、近世においては蛇の目釉剥ぎ皿の編年を再考するなど、当該遺跡における主要な中世～近代についての考察を取り上げています。(小川祐司)

※報告書には頒布できるものがあります。詳しい頒布方法につきましては、豊島区埋蔵文化財調査報告分は豊島区行政情報係もしくは文化財係へ、それ以外は当会までお問い合わせ下さい。

遺跡見学会の準備

当会で開催している考古学講座や展示では、調査現場の臨場感をお伝えしたいという考えから、出土した遺物や、発見した遺構の写真、図面などをできるだけ多くご覧いただくように心がけています。

出土遺物は、展示や講座で多くの方に実物をご覧いただけますが、遺構は、直接目にしたり触れたりすることがなかなかできません。それは、発掘現場で調査され、図面や写真などの記録を作成した後は、工事などによって破壊されて二度と目にする事ができなくなるからです。

そこで、遺跡見学会を開催して、調査中の遺跡を見に来て頂こう！ということになります。賛助会員の方には、時折見学会のご案内をお届けしています。それをご覧になって「明日開催って、急に言われても・・・」と戸惑われることもあったかと思えます。

これは、私たちが担当する発掘調査が比較的小規模で、調査期間が短いことに原因があります。遺跡の調査を始める前に、どのような遺構がどの程度包蔵されているのか、予測することは困難です。さらに、調査期間が1か月程しかない小規模な調査では、日々の作業が目まぐるしく進みますから、見学会に適したタイミングを計れるのは、見学会まで1、2週間しかない、というぎりぎりの日程になってしまうのです。

見学会を開催すると決断してからは、急いで準備を進めます。教育委員会を通じて建物計画

の事業主さんのご了解を得た後、見学通路の設営計画を作ります。その計画をもとに説明内容や雨天の対応等を決めて、やっと皆様にご案内できるようになります。近隣の方にご覧いただく場合には、ポスターを貼ったりホームページに案内を載せたりと、区教委を通しての広報も必要です。

現地作業に協力頂いている調査会社に、配布資料の図面や設営機材の手配をお願いすることもあります。当日、遺物を手に取って見ていただけるよう、水で洗っておくことも欠かせません。現地の足場が悪いときには傷害保険に加入する必要性も検討します。

見学会当日は、皆で手分けして解説や場内整理をします。調査会の事務所で問い合わせの電話を受けられるよう留守番するのも大切な役目です。このようにして、見学会当日、皆様を現場にお迎えしているのです。これからも折にふれて見学会を開催してまいりますので、ぜひ足をお運びください。
(成田涼子)



遺跡見学会の一コマ(染井遺跡にて)

- ①発掘調査の説明者 ②解説板の設置 ③実際の発掘作業の様子
④出土した遺物の一部 ⑤見学者 ⑥見学通路の設営

【編集後記】

■巢鴨遺跡の発掘調査では、ちょっとした特設展示を設け、遺跡と実物資料をセットで見得られるように工夫しました。こうした小さな取組みを続けることは、周知とともに地域で生活する住民の方々の理解と協力を得ていくためには大事なことだと考えます (翼)

編集・発行

特定非営利活動法人
としま遺跡調査会

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨3-8-9 巢鴨複合施設 201号室

Tel・Fax 03-3915-6962

E-mail tics389@a.toshima.ne.jp

ホームページアドレス：<http://www.toshima-iseki.org/>

「つたのは通信」の由来：蔦は大きな樹ではありませんが、生命力が非常に強い植物です。この蔦の葉が周囲の樹木や建物につたい茂るように、多くの人に遺跡の楽しさ、大切さを知ってもらいたいとの願いを込めて会報の名としました。また、染井遺跡を代表する大名屋敷である津藩藤堂家の家紋としても、馴染み深い植物です。

題字：湯澤和子

ロゴデザイン：石原幸

イラスト：榎本邦人、千葉弘美